

JRIS

鉄道車両－内装用押出型材の標準

JRIS R 0103 : 2005

(JARI)

平成 17 年 9 月 9 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

社団法人 日本鉄道車輛工業会 発行

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	田 中 眞 一	財団法人 研友社
(委員)	佐 伯 洋	国土交通省 鉄道局
	宮 本 昌 幸	明星大学
	高 原 英 明	明星大学
	古 関 隆 章	東京大学 大学院
	岡 本 勲	財団法人 鉄道総合技術研究所
	新 井 静 男	東日本旅客鉄道株式会社
	佐々木 誠 一	東京地下鉄株式会社
	沖 松 邦 正	日本車輛製造株式会社
	大 山 滝 夫	株式会社東芝
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	溝 口 正 仁	社団法人 日本鉄道車輛工業会
(顧問)	井 口 雅 一	東京大学 名誉教授
(事務局)	下 村 孝	社団法人 日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	手 塚 和 彦	財団法人 鉄道総合技術研究所
(委員)	佐 藤 公 一	川崎重工業株式会社
	山 口 隆	日本車輛製造株式会社
	河 口 清	近畿車輛株式会社
	川 端 俊 夫	東急車輛製造株式会社
	尾 藤 千 秋	新潟トランス株式会社
	石 川 次 男	三菱重工業株式会社
	和 嶋 武 典	株式会社日立製作所
	大 西 利 之	株式会社東芝
	大 塩 見 省 吾	三菱電機株式会社
	尾 崎 覚	富士電機システムズ株式会社
	細 田 芳 男	東洋電機製造株式会社
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	柴 藤 忠 重	ナブテスコ株式会社
	新 井 衛 一	日本信号株式会社
	島 添 敏 之	株式会社京三製作所
(顧問)	田 中 眞 一	財団法人 研友社
(鉄車工委員)	佐 藤 芳 彦	社団法人 海外鉄道技術協力協会
	溝 口 正 仁	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	下 村 孝	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	宗 像 政 美	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	川 平 吉 郎	社団法人 日本鉄道車輛工業会

制 定 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会 会長

掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ

発 行 者 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会

(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NIT-TEL ; 03-3257-1901 NTT-FAX ; 03-3257-3200

URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>)

審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会

作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会にお願いします。

なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格の前身となる **RIS 103** の制定・改正の経緯は次のとおりである。

鉄道車両の内装は多様な内装部品で構成されているが、そのなかで内装壁面を構成する天井板、側内張り板、妻内張り板、床板の端部は、見栄えに配慮してアルミニウム合金製押出し型材（以下、押出型材という。）の押さえ面を使用することが一般的である。また、点検ふた、ポスターレール、広告吊等の内装部品にも押出型材の使用される部位も拡大し、型材の断面形状が多種多様化する傾向にある。

このような状況から“車体内装用アルミニウム合金押出し型材の標準”が1973年3月に制定されたが、社会環境の変化に伴うアコモデーションニーズの変化や多様なニーズに応えるため1983年7月には第1回目の改正を行い、1987年3月には第2回目の改正で **RIS 103B** とした。

今回の **JRIS** 化に当たり、製造実態と異なる部分を解消するため“使用ひん度の著しく少なくなったもの”及び“入手性が悪く選定されなくなったもの”を中心に見直しを行い、“日本鉄道車輛工業会規格の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定した鉄車工規格である。

今回の制定にあたって、環境対策に関する事項について配慮し、製品使用の標準化をはかった。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。会長及び鉄車工規格審査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002（平成14）年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：**RIS**”は、1969（昭和44）年代の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化（共通使用）、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。近年、**JIS** は国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、**RIS** は鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来の **RIS** の制定方針に沿う標準と新しい **JIS** の考え方に沿う標準との複数で構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003（平成15）年1月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：**RIS**”は、順次“鉄車工規格：**JRIS** の R シリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。

改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身の **RIS** の番号の前に零（0）を加えて四桁の番号で構成する。

なお、2003年以降新規作成・登録する“R シリーズ”の規格は、1001番からの追い番号で登録する。

JRIS は、関係する技術分野に応じて四つに区分した体系で構成していて、この規格の“R シリーズ”のほかに、“D”、“E”、“J”シリーズがある。

目 次

	ページ
序文	1
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 用語の定義	1
4. 標準形材の選定	1
5. 記号及び種類	2
6. 材料	2
7. 品質	2
8. 製品の呼び方	2

鉄道車両—内装用押出型材の標準

Rolling stock—Designing guidelines of aluminium alloy extruded shape for interior

1. **適用範囲** この規格は、鉄道車両に標準的に使用する内装用アルミニウム合金製押出し型材（以下、内装用押出型材という。）について形状寸法を規定する。
2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。

JIS E 4001 鉄道車両用語

JIS H 4100 アルミニウム及びアルミニウム合金の押出型材

規格概要のため以下は省略する。